

武蔵野市長 小美濃 安弘

市民との対話を大切に 14万市民の命と暮らしを 守るまちづくりを



これまで市議会議員と都議会議員を長く務め、まちの課題解決に取り組んできた小美濃安弘新市長。そのキャリアを生かして、市長としてどのような市政を目指すのか、これまでの経験やまちづくりへの思いなどをじっくりお聞きしました。

「人の役に 立つことをしなさい」 祖父の言葉が人生の指針に

——ご出身は吉祥寺で、小美濃家は地元で代々続く家系だそうですね。

生まれも育ちも吉祥寺東町です。小美濃家には本家と分家があって、私が生まれたのは分家の方なのですが、曾祖父が吉祥寺村の村議会議員を務め、祖父が町議会議員と市議会議員、伯父も市議会議員を務めていたこともあって、身近なところに「政治」があるような環境でした。祖父にとって私は初孫で、とてもかわいがってもらったのですが、小さい頃から、「安弘、大人になったら人の役に立つことをしなさい」と事あるごとに言っていました。もう耳にタコができるくらい聞かされていましたね。

私が高校2年生の時に祖父は亡くな



小美濃市長の祖父
文太郎さん

ったのですが、その時、「人の役に立つことって何だろう」と真剣に考えるようになりました。しかし、まだ自分が政治の世界に行くことは全く考えていませんでした。東京電機大学高等学校から東京電機大学の建築学科に入学したこともあって、卒業後は住宅メーカーに就職しました。「家を建てることは人の一生で最大の買い物だし、住宅に関わることも人の役に立つ仕事ではないか」と思ったのです。

途中で建築士の資格を取ったのですが、会社が設計から現場監督、お客さまへの引き渡しまで1人の社員が担当するプロジェクトを立ち上げて、私は選抜でそのチームを任せられることになります。最初から最後まで1人の人間



幼少期の小美濃市長。
自宅にて

が責任を持って家づくりに携わることができたのは貴重な経験でした。ちょうどその頃はバブル経済の真ただ中だったので、住宅の建設ラッシュですべてつもなく忙しかったのですが、職人さんたちと一緒に「家を建てる」という一つの目標に向かって力を合わせていく仕事はとても面白く、やりがいがありました。「ゼロから何かを生み出していく仕事の面白さ」を味わうとともに、「人の役に立つことをしなさい」という祖父の言葉を自分なりに実行できていたのかなと思います。

議員の経験を踏まえて 市長選に挑戦

——そんな中、政治の世界へ足を踏み入れたのはどうしてだったのですか？
住宅メーカーでやりがいと達成感を味わったことで、「さらに人の役に立つこととは何だろうか？」と自問するようになったのです。そして、祖父の言



住宅メーカーに勤務していたころ

葉を追うような形で、平成7年、武蔵野市議会議員選挙に挑戦し、初当選を果たすことができました。その後、議員2期目の途中で地元都議会議員が引退することになり、平成13年、都議会議員選挙に立候補して初当選。ところが、2期目の選挙で落選、その4年後の再挑戦でも落選してしまい……。 「もう政治家は引退かな」と思いながら、武蔵野市の市民運動などに参加する日々でした。

地域のさまざまな課題に取り組む中で、「もう一度、武蔵野市のために仕事したい」という思いが強くなり、平成23年に市議会議員選挙に再び挑戦し、当選することができました。以来、市議会議員としてさまざまな地域の課題に取り組んできました。
——市長選への挑戦はどういった思い

からだったのでしょうか？

コロナ禍で市議会議員を経験したことで、地元である武蔵野市への思いがより一層強くなりました。たとえどんな困難や苦難があっても、市民と力を合わせてそれを乗り越えていくこと。

そのために市議会議員としてできることも多くありますが、市長でなければできないこともあります。市議会議員は26名いる中の1人なので、役割としては26分の1ですが、市長は1分の1。役割も権限も大きく異なります。その分、責任の大きさも違いますが、あるべき市政のために、ここは挑戦してみようと思ったのです。前市長の退任からあまり時間もなかったのですが、これまでの経験値などを踏まえて「自分にやらせていただきたい」と思いました。

子どもの頃から 漫画を描くのが 好きだった

——少し話題を変えて、小美濃市長のプライベートについてお聞きしたいのですが、小さい頃から漫画を描くのがお得意だったそうですね。

幼稚園の頃、絵画教室に通っていて、



平成29年の市制施行70周年記念式典で「第九」の合唱をした際の1枚

小さい頃から絵を描くのは好きでした。うまいかどうかは別にして(笑)。第三中学校に在学中、漫画を描く部活動がなかったので、自分で漫画研究会を立ち上げました。署名活動をして先生に直談判しました。今思えば、あれが政治活動の原点かもしれないですね。私の場合、赤塚不二夫さんの影響でコミカルなタッチの絵柄を描くことが多いのですが、市議会議員時代にもチラシに政策をまとめる際に漫画を描いたりしていました。今でも人に何かを説明する時、「こういうイメージなんですよ」とササッとイラストを描くこともあります。

——武蔵野市は昔からたくさん漫画家が住んでいることでも知られていますが、漫画が描ける市長というのもユニークですね。

武蔵野市に事務所のある漫画家・江口寿史さんとは、江口さんの娘さんと私の娘が幼稚園の頃の友だちだったこともあって、今でも街中でお会いした

ら「ごあいさつする関係です。もともと江口さんの『すずめ!!パイレーツ』を全巻持っているくらい大好きな漫画家さんだったので、市議会議員時代に描いてもらった私の似顔絵は今でも宝物ですね。

まちづくりのヒントは 市民の皆さまとの 関わりの中にある

——市長選の際にもさまざまな公約を掲げていましたが、これからのようなまちづくりを進めていくお考えですか？

「14万市民の命を守る」という大きな目標を掲げたのですが、具体的に最も重要な課題は地震に対する備えだと考えています。今年は新年とともに能登半島地震が発生しましたが、そこでも家屋の倒壊による被害が多数起こりました。30年以内に7割の確率で発生するとされている首都直下地震に備え、市民の命を守る対策を進めることが喫緊の課題です。武蔵野市には大きな川や山はないため、水害や土砂崩れなどによる大きな被害は想定しにくいのですが、地震による家屋への被害は避けようがありません。家具転倒防止対策

を全世帯に徹底するなど、具体的な対策が必要だろうと考えてます。

また、市議会議員としてコロナ禍を経験したことを踏まえて、次に来るかもしれない新たなパンデミックへの備えも重視しています。コロナ禍での教訓を生かした学校教育の仕組みや公共空間のあり方なども検討していく考えです。

そして、完成から35年が経過した吉祥寺駅北口駅前広場や南口地区への再投資、三鷹駅北口ロータリーの改良など、さまざまなまちづくりの課題もあります。個別の施設や建物についてだけでなく、まちのランドデザインをどう形づくるのかという大きな視点が重要だと思えますので、市民の皆さまの意見を聴き、市議会での議論も通じ

て検討していければと考えています。——市民の皆さんの声を聴くためにどのような方法をお考えですか？

これまでも「市長への手紙」という市民のご意見やご要望を聴く制度があり、メールなどでも受け付けていました。もう少し気軽に声やアイデアを寄せていただけるような仕組みがあるとよいのかもしれない。そのため、何か良い方法がないかと考えているところです。

武蔵野市は古くから市民活動が活発ですし、市民の皆さまのまちづくりへの関心が高いことは市議会議員時代から実感していました。市民の皆さまの知見をお借りするためにも、市の職員に対しては、コロナ禍によってやや希薄になってしまった市民との関わりを

積極的に増やしていきたいと言っているところです。もつとまちへ出て、市民の皆さまと関われば、そこからさまざまなニーズが見えてくるし、そこにまちづくりのヒントが眠っているはず。市民の皆さまからはさまざまな声をお聴かせいただき、私たちからも大事な情報は丁寧にお伝えしていく。そうしたキャッチボールが、これからのまちづくりにおいてとても大切ではないでしょうか。

おかげさまで私は市長に当選できましたが、当然のことながら私に投票しなかった方たちもいらつしやいます。その方たちも含めて大切な14万市民ですから、お一人お一人の声に耳を傾けながら、より良い武蔵野市にしていきたいと考えています。



小美濃 安弘 (おみの・やすひろ)

昭和37(1962)年、武蔵野市吉祥寺東町生まれ。椋の実幼稚園、本宿小学校、第三中学校を経て、東京電機大学高等学校へ進学。東京電機大学建築学科で建築を学び、卒業後は積水ハウス株式会社に入社、設計や現場監督など、約9年間在籍。平成7年、武蔵野市議会議員に当選、以後、都議会議員を経て、平成23年、再び市議会議員に。令和5年12月、武蔵野市長に就任。座右の銘は「諸行無常」。「人生、良い時もあればそうでない時もある。良い時は浮かれず、悪い時は落ち込み過ぎないように」という教訓の意味で大切にしている言葉です。(小美濃市長)